

# めだかの学校

平成 25 年 2 月 1 日  
第 79 号  
学舎：東久留女木新田観音山  
「みどりの郷キャンプ場」内  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL0539-62-6691

## 校長訓話

第七十九回 校長 松本 芳廣

「めだか」のいる  
ふるさとをいつまでも

公立でも私立でもない、おもしろ人立の「めだかの学校」が二〇周年を迎えた。一九九三年九月、中秋の名月の夜、旧引佐郡引佐町奥山で開校した。メディア界の平山氏、地元行政の伊藤氏、地域づくりコンサルタントの武井氏、そして静岡市から引佐に移住してきたばかりで現事務局長の榊原氏の四人が「いいだしっぺ」となって始まった。

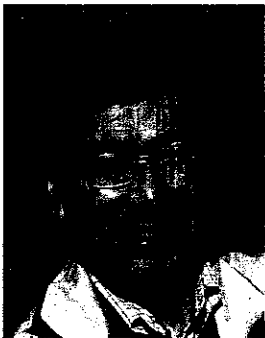
詳しい建学の経緯は知らないが、昭和が終わって平成になるとともにバブル経済も崩壊し、人々は自分達のそれまでの暮らし方や生き方、そして自分達が住む地域をもう一度見直してみようとした。見直してみると、足元に実はとても面白い人材がいる。素晴らしい祭りや芸能などの文化がある。いくら探しても他にないものが、ごろごろしていた。こうした地域の人材と資源をつなぎ合わせれば、凄いいことになると思ったに違いない。根っからの「やらまいか精神」で実際に声を掛けてみると、おもしろ人としての素養を備えた「めだか」が集まるは集まる。今まで埋もれていたおもしろ情

報も飛び交い、たちまち、引佐を越えて、浜松磐田をはじめ県内各地から、そして、愛知県や長野県などからも好奇心旺盛な「めだか」が集まるようになった。「誰が生徒か先生か」。童謡に歌われた基本スタイルを守り、生徒が交替で先生になる。「もう一人の自分を見つけてよう」という建学の心に添って、一匹でも多くのメダカとコミュニケーションを深めて、新しい自分を見つけてようとした。他の「めだか」といっしょに泳ぎながら、今までの自分の泳ぎを見つめ直し、元気をもらった。そして、夜、曲がりくねった山道を通うのは決して楽ではなかったが、次の登校を心待ちにするようになった。給食の夕食には、今はもう廃止となり懐かしいが、麦酒や銘酒も出されて、交流や議論を余計に活発にしてくれた。文化祭や遠足もあった。特別授業は何回あっただろうか。一〇周年の同窓会、十五周年の大学院もあった。そして、この二月には二〇周年の同窓会が開かれる。

学舎も、「いなさ自然休養村」の「つみくさ」で一〇年、浜松市引佐町東久留女木のキャンプ場の集会所で一〇年の間、三ヶ月に一回、一度も休むことなく開校してきた。授業はもとより給食の調理や食事など、三月（みつき）に一度とは言え自由な学校生活を許してくれた。これまでの学舎と学舎の関係者に感謝するばかりである。そして、偶然にも二

〇周年という区切りとなる今年から、学舎は新東名高速の開通で活気付く森町の「一宮総合センター」をお借りすることになった。これから、新しい学舎で新しい「めだかの学校」が始まる。これまでの学舎は山の中だったが、新しい学舎は集落の真ん中だ。地域の人たちと一緒に学舎も期待される。

「めだかの学校」として、何か新しいものを創ったわけではない、外に向かって大きな仕掛けや催しをしたわけでもない。が、人と人のネットワークは大きく広がり、さまざまな分野で花開いてきた。既存のコミュニケーションは形骸化したり消滅したりしている。一方で、ツイッターやフェイスブックなどの新しいコミュニケーション手段が一般化するなかで、「めだかの学校」のような地縁と血縁を超え、顔と顔を突き合わせ、腕と腕を組む実態のあるコミュニケーションの機会は、これからますます重要で貴重になってくる。みんな、気持ちには青年でも年齢を重ねてきた。新しい学舎への移転を契機に、身も心もともに若い「めだか」の参加を募りながら、ますます活発に泳ぎ回ります。めだかのいるふるさとと美しい。メダカがいるふるさとと美しい。



第79回は、開校日が変更されています。  
【注意下さい！】

## めだかの学校伝言板

——第79回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／松本芳廣

教頭／鈴木真弓

用務員／山下安範

給食係／野嶋一男・鈴木祐之・加藤ひとみ・西川裕子

村田徳治・村木謙式・田村進治・松本芳廣

寺田幸宏・村松達雄・鈴木真弓

渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山  
みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成 25 年 3 月 2 日 (土) 正午より

受付／大場敬子・鈴木祐之・塚本佳男  
奇藤昭(後見人)

20 期通年テーマ『めだかの学校 20 年 あらたな旅立ち』

<時間割>

今回のテーマ<ありがとう、学舎みどりの郷キャンプ場>

正午 与鈴、校歌斉唱

0:10 ありがとうパーティー

1:40 ありがとう観音塾 特別授業

「めだかの学校の 20 年、道草しながら…」

言い出しっぺ 榊原幸雄 先生

●給食の時間は、ありがとうパーティーです。

16:30 閉校



# めだかたち

## めだかの学校20周年 スペシャル同窓会

「おもしろ人立」めだかの学校「」の20周年スペシャル同窓会が、平成25年2月9日(土)午後2時、10日(日)の2日間、浜松市北区引佐町奥山の臨濟宗方広寺派大本山 方広寺で開かれる。

方広寺から300mほど上にあつた「いなさ自然休養村 野草料理の店「つみくさ」を拠点に平成5年9月3日に、平山豊・伊藤茂男・武井紀雄・榎原幸雄の四人の言い出しっぺによって開校された「めだかの学校」も20年。何人の「おもしろ人」が巣立っていったらうか?。今回のスペシャル同窓会のご案内、色々な名簿から住所・名前を引っ張り出して280人以上のOB・在校生に発送した。が、欠落している人も多い。返信されたOBや在校生のひと言を見ると、建学の精神のコンセプトである『好奇心』と『遊び心』と『挑戦心』の心が脈々と引き継がれていることが見える。地域づくりの、人と人とのつながり役としての学校の役割、学校が核となって遠心力の中で多くの「めだか生」が交じり合い、地域づくりを担っている姿である。

ただ、20年という歳月は多くの人が若い、年令的にも親御さんの介護による老々介護や天国へ旅立った人もいいる。「もしかしたら「めだかの学校」と聞かれるのは、これが最後かもしれない」と老体に鞭打って参加した生徒もいる。色々な都合で参加できない人もいいる。そんな人たちにインターネットのユーチューブで全国へ情報発信できれば...と、そんなことも検討してきた。

この『第79回めだかの学校たより』が届く頃には「20周年スペシャル同窓会」が終わっているかもしれない。でも思いをひとつにしてくだされれば幸いなのである。(言い出しっぺ榎原幸雄)

### ●プログラム 2月9日(土) 13:00

- 付・歓迎コンサート 薩摩琵琶演奏。14:00開校セレモニー。15:30特別講演菅原欽一氏。17:30夕食交流会。19:00全員参加の大交流会。22:00消灯。10日(日) 6:00本堂にて座禅。7:00朝食。8:00映画「果てぬ村のミナ」鑑賞。9:30講演会「果てぬ村のミナ」についてのトーク。10:30私にも言わせて!2分間スピーチ。11:50閉会の辞。12:00お別れ昼食会。13:00解散。

※スペシャル同窓会に合わせて、金子芳美メダカの友人 早川洋介さんが、方広寺の石仏などを描いた「早川洋介油彩画展」も本堂北廊下で開催されている。

### ■「全国まちづくり交流会 in 森町」が行われます。

2003年愛知県足助町をスタートに始められた全国まちづくり交流会。全国各地で活躍している地域づくり団体が交流し、自主的な活動のもと、交流によりそれぞれが意識を高め、また、それぞれの地域の活性化を図っている。

10回目当たる2012年度は、大震災によって被害に遭われた宮城県で開催された。会場は、二次避難所として最大の受け入れ先であった鳴子温泉で、9月28日、30日の3日間に及んだ。28日の前夜祭では、久々に顔を合わせる仲間たちの元気な声を聞き、2日目には実際に大きな災害が発生した南三陸町の現場を視察した。1年半もの時間が経過するにもかかわらず

ず、今なお残る傷跡に衝撃を受けた。そして、午後のシンポジウムでは私たちが大災害に対して何ができるかみんな考えて。夜には、全国から駆けつけた仲間や地元の人たちなど約150名が参加しての大交流会が行われた。この会場で次の開催地の了解をいただいた。2013年第11回は、静岡県森町で開催される事に決定し、めだかの仲間たち10名が会場の皆さんにあいさつした。新東名開通や静岡空港開港を機に全国への情報発信をするとともに、全国からの新しい仲間づくりの場として、めだかの仲間とこの交流会を盛り上げていきたい。

なお、先日関係者が集まり、古代の森小國神社を主会場として行うよう次のとおり決定された。

日時：平成25年6月7日(金)、8日(土)、9日(日)

会場：静岡県森町「小國神社」

宿泊先：小國神社大宝殿、アクティ森他

内容：基調講演、活動事例発表、交流会等(詳細についてはこれから決定)

開催に当たっては、めだかの学校のみならずの御参加と熱い支援をお願いします。(村松達雄メダカ)

### ■姫街道サミット

平成の大合併の前では姫街道は7市町村を街道が通っていた。そこに各地の歴史と郷土を考える会など地域の歴史や文化の保存や地域づくりをしている姫街道に関わる団体11団体が集まり、街道だから道でつながっていくこうと5年前めだかの生徒小林佳弘さんの講演をきっかけに姫街道連絡協議会「姫街道未来塾」として立ち上げた。

各団体の活動を尊重し姫街道にまつる情報を共有し姫街道の「歴史と文化とその魅力」を次の世代に残すように情報を共有し姫街道を発信している。

姫街道未来塾が取り組む活動は年4回の瓦版の発行と半年間かけて解く姫街道検定と各地で開く姫街道ウォークや散策会そして姫街道フォーラムを姫街道沿いで開催している。

「姫街道検定は「温故知新」の実践の旅」半年をかけて解く姫街道検定は7月20日、1月10日の期間で実施している。教室の中で試験のように行う検定ではない。姫街道の街道沿いの問題で現地に出向いて問題を解くようになっていく。行けば必ず解ける100問の課題である。

第1回は満点が1人、第2・3回は4人、今回の第4日回目は22人の満点者が出た。姫街道検定は旅しながら解く問題である。15里14町(約60km)の周辺を含む100問の出題である。

毎回問題を作るのも大変だが「知っているも知らない」ことや新たな発見を検定参加者にも、このときめきを感じてもらいたいとワクワクしながら、毎回現地に赴いて作っている。

『浜松文芸館 「切り絵で伝える物語」上嶋裕志切り絵展』

2月21日まで現在開催中です。入場無料三遠南信の国指定重要無形民俗文化財をテーマに展示してあります。

めだかの生徒天龍村の関さんとのところ坂部の冬まつりも3点ほど展示してあります。期間中には是非一覧ください。

三遠南信のこの国指定重要民俗文化財を世界遺産へと皆様に声を掛けています。まずは3県の各団体がまとまり連絡協議

●浜松市引佐町の陶芸家名和紅元メダカ。20年間長いですね。続けることの大事さ、思い知らされる！だって。燈籠型の「たんころ」。引佐町奥山の「つみくさ」での授業の時は、通路を「たんころ」が暖かく照らしてくれました。奥さまのクロメダカは童画家。独特のファンタジー童画でした。

●富士市の豊田由美メダカ。起業家を支援する「はままつ起業グランプリ2012」で一般ビジネス部門の最優秀賞に。浜北区の障害者施設で六月に開園を目指すブルーベリーの観光農園の運営や商品開発の支援をする、だって。(障害者施設の施設長は「主人」。富士市の自宅、農家レストラン「ちやの生」ではブルーベリー狩りもやっている。あれ、こんどは新聞に、1月12日に農家民宿始める。1月18日には木村智子さんと、大島たまよさんが宿泊。マイツタね。宿泊者2人はメダカ生。木村智子メダカに聞けば「新聞とテレビが取材に来るので、気の合う2人がサクラになった」だって。

●三重県津市の杉谷知也メダカ。お待たせしました。12月25日に無事男の子が生まれました。3046g、まさにお父さん似のまるまるとした子です。名前は享祐(きょうすけ)ちゃん。



●磐田市の磐田市民でつくる「飯館村を応援する会」代表の深澤明男メダカ。福島市内の仮設住宅で暮らす村人から「年末に餅をつきたい」という声を聞き、会員の人たちの協力も得てもち米三百三十キロを贈る。東日本大震災が起きてからはミカン二十ケースを送ったり、募金活動もしている。1月3日には、JR磐田駅前、「とよおか探れたて元氣村」の一員として「磐田市観光協会」と一緒に「ハッピーニューイヤーもちつき会」を開催。つきたての「きな粉もち」を集まった人に配りながら募金活動。藤田潤吉メダカ座長の浜松花蝶ちゃんの皆さんも盛り上げてくれて大にぎわい。募金も22,000円ほど集まって飯館村へ送る。藤田潤吉・久枝メダカをはじめ何人かのメダカ生もかけつけてくれた。

●その浜松花蝶ちゃん。昨年11月に続いて、今年10月にポーランド、ボズナンで開かれる「ジャパンウィーク」に出演する。欧州の演奏は4カ国になるんだって。

●静岡市清水区蒲原の片瀬信江メダカ。静岡市の職員だが、蒲原で五十嵐邸とまちなみの会の活動を続けている。毎日楽しい、と。

●愛知県新城市の星野直樹メダカ。遠赤外線放射量の多い段戸珪石を市販の電気ホットプレートにはめ込んだ遠赤外線調理器具を開発。星野メダカは営業部長でクックプレートを携え、各地で講演しながら販売している。中日新聞東三河版で紹介される。因みに社員は社長さんと二人。「食と健康」をテーマに頑張る、と。

●浜松市の城内実メダカ。「アルジェリア人質事件」の、外務政務官として厳しい現場での対応に。1月26日最後の犠牲者の方と帰国。お疲れさま。これからも「信念の人」として頑張ってください。

●浜松市の「すまいるむら」の内山ゆきゑメダカ。私は相変わらず環境活動をしながら、「浜松がんこ祭実行委員、浜松おもてなしクラブミミひんず、浜松まちなか青空スタジオびびっと」など浜松市の活性化のために活動している。3月16日(土)、17日(日)の2日間、鍛冶町大通り、浜松駅北口広場・キタラ、浜松市ギヤラリーモール・ソラモなど、浜松市の町中を会場に「第13回浜松がんこ祭」を開催。全国から129チーム・4800人が舞い踊ります、と。その実行委員長だ。

●静岡市の栗原績さん。めだかの学校29周年とのこと、当初の頃、平成5、6年と西部農林事務所に在籍し、今村純子さん、前島恭代さん(1回生、元メダカ)など、地域の皆様と一緒したことが懐かしく思い出されます。昨年10月で県の常勤の仕事は一段落し、浙江省との交流主体の県日中友好協議会、大井川源流部の森林再生協議会、県防犯協会などに係っています。県日中友好協議会がメイン、とのこと。めだかの学校の初期の頃に係わりのあった方のお手紙嬉しいですね。

●浜松市浜北区の岡本公子メダカ。体調を崩されて長くりハピリ中。めだかの学校に出席できなくても、めだかの学校を好まれている。今回の20周年スペシャル同窓会に、心配りのご寄附を頂きました。感謝です。

●和歌山大学の大澤健雄教授から「めだかの学校」については、以前いただいた資料を拝見した時から一度視察をしたい、と考えていた。今年はその機会に恵まれることを願っている、と。溝口久メダカと懇意にしている。「観光のことについては、大澤教授の『観光革命』の本を読むといいよ」と教えられ購入。観光協会の仕事で参考にさせて頂いている。昨年静岡市でのフォーラムで講演を聞かせていただいたが、今年は磐田で講演会を開きたいと思っています。

もつともつと載せたいが、紙面の都合で今回はこれまで。次回はあなたの番ですヨ送ってね。バラメダカ

XX XX XX  
□ □ □ □ □ □

■「めだかの便り」冊子にします!! 「めだかの便り」も、80号になります。冊子にすることにしました。A3ウラオモテで80枚。特集号まで含めればもつと増えます。プラス活動などの写真などを挿入すると、約100枚。印刷屋に頼むと、50万円以上とのこと。これではムリなので、磐田市活動センターの「のっほ」の代表三輪邦子メダカに相談したら、「自分たちで印刷し、綴じれば80枚100部で5万円もかからない」とのこと。両面印刷で100枚、200部となれば10万円程度でしようか。

そんなわけで編集協力者を募集します。発行は6月の全国まちづくり交流会までに作るようになります。写真など活動の状況が分かるものがあればご提供ください。価格は一部七百元、八百円ぐらいでしょうか。購入希望も取ります。事務局まで。

# トピックス

## ■年末ジャンボ宝くじ、300円が当たりました

愛知県新城市の宝くじの販売の時に、行列ができるサークルK。経営者の田中きみ子メダカから12月の「めだかの学校」で、年末ジャンボ宝くじ券を10枚頂きました。幸ちゃん、福ちゃんのネコちゃんの手招きで300円が当たりました。3億円が当たったら、「めだか募金」を創設する予定でしたが、あきらめました。「了解下さい」とはいえ、ありがとうございます。感謝です。

## ■事務局だより

25年元旦、家の近くの獅子ヶ鼻公園から拝した初陽の出。今年良かった。いいこといっぱい。...と思っていたら、もう春はすぐそこ。2月4日は立春。観光協会にいと梅の花のことや桜の花のことをよく聞かれるようになりました。

さて、第78めだかの学校は12月7日(金)。校長 池田タキ江、教頭 斎藤昭、用務員 塚本佳男。第78回につづいて今回も用務員が欠席。急遽野嶋一男メダカにお願ひする。12月の学舎は寒いので、給食の「しし鍋料理」を学舎のテーブルにセツトして授業をはじめること。テーマは「なかま」という人と人とのつながり。池田校長だいが緊張気味。一時間目社会「第二のふるさとインドを旅して」大島たまよ先生。インドのダタク地方へ行った時のことを語る。映画「幸せの経済学」は、中国とパキスタンと接している地域のドキ

メント。年間降雨量は80mm、インフラも整っていないし、電気もない、宗教はチベット仏教。何かあれば占ってもらおう。二時間目は自然科学「東海地震を予知した男、舞阪から森」服部守孝先生。前に住んでいた舞阪は海拔15m。ちっと強い台風が来れば床下浸水。そんな繰り返し60cmの盛り土で対処。ある時決心し森町へ。定年前はコンサル会社フジヤマへ勤めていたので地勢には滅法強い。理論説明。と言われてもねえ。三時間目は倫理「南三陸に学ぶ」村松達雄先生。第10回全国まちづくり交流会で宮城県三陸町へ視察に行った時のことをパワースポットで説明。東日本大震災の被災者の現状を語る。三者三様、大いに熱が入っていた。さすが校長訓話の池田校長、「人前で話すのは苦手」と、緊張気味ながらも花博でのボランティア活動を語る。テーブルの上の「しし鍋」はグツグツと音をたてはじめる。司会進行の教頭、演題に立ってビールの話をはじめる。「今は教頭の話す時間ではない。人前だと思ったが、はじめははじめとして厳しく注意する。勇氣(?)がいるねえ。『待ってましたア』の給食の時間。『しし鍋』まさにちょうど食べ頃。いや、美味しい。身体もポカポカしてくる。隣席のMさん「人前であんな叱り方をして!」とたしなめられた。マイツタね。私語飲食全て禁止の次回3役の発表。『3月1日の第79回めだかの学校は、校長 松本芳廣、教頭 鈴木真弓、用務員 山下安範。79回めだかの学校は学舎最後の授業の日。よろしく頼みます。最後にみんなで輪をつくって再会を。なぜか胸をしめつけられしんみりと...」

お世話になる森町の自治会の人も招待しよう」と言うことから、昼間に、3月2日(土)正午から、と決まる。テーマは「ありがとう、学舎みどりの郷キャンプ場」。『とにかくパーティーをやるう!』『先生は何んと言ってもバラさんだ。』『学校のお机、椅子、厨房器具の競売も』。日時プログラムも変則に。20年目にして初めての事となる。又、20周年スペシャル大同窓会の話しも。細かいところは次回に。12月27日(木)、20周年記念イベントの打ち合わせを味里で行なう。15周年の時の時間割や内容を参考にしながら討議。基調講演は菅原敬一メダカに、2日目の講演は、中村明男メダカや何人かのめだか生がお手伝いしている「果てぬ森のミナ」の映画上演とトークに。ラフ原稿はバラメダカがつくり、お正月に石野省三メダカがパソコンで清書。1月8日、バラメダカと田村進治メダカが豊岡東公民館でプログラムとハガキ印刷、同夜7時から公民館で8人で封筒の宛名書、封筒入れ、切手貼り、色々な名簿からひっぱり出しての作業。あとはバラメダカが持ち帰り、全てをチェックし、一筆入れて発送。まだ作業中に先送の人から返事が来るという有様。お赦しを!。ハガキを同封しても全ての人から返信あるでもなく...。第79回めだかの学校だよりとダブって、こりやマイツタの連続でした。ハイ。

## ■常態化の発行日遅れ。ごめん。

原稿はなんと1月31日までに書き終えた。これからの作業もある。間瀬亮太メダカに割付を書いてFAXして。この最後の原稿を本島慎一郎メダカに送って!。それがなんと、記事が多く内容も豊富で削れず。「人・ひと・ヒトだより」2頁ペラに。2月3日、4日に追加記事。益々遅れて...

伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、村田徳治メダカ、本島慎一郎メダカ、間瀬亮太メダカありがとう。発送などのお手伝いの明美さん感謝!

## ■第20期の受け付けは随時してます。

第20期は25年1月31日までです。第79回は学舎みどりの郷キャンプ場ですが、第80回は全国まちづくり交流会と合同開催となりますので、通常授業はありません。第80回は6月7日(金)・8日(土)・9日(日)の3日間、遠州森町一宮の小國神社で、全国のまちづくり仲間との合同のイベントとなります。第21期の81回の授業は、新学舎の森町一宮総合センターとなります。ご承知ください。申込み希望者がありましたら、事務局までご連絡ください。申込書と資料送ります。

## ■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、第11回全国まちづくり交流会実行委員会と合同部会も含み変更となりますが、発行は4月下旬〜5月上旬となります。締切りは4月10日頃までをお願いいたします。郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trc@vr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡は事務局まで。  
携帯080・1612・9130

